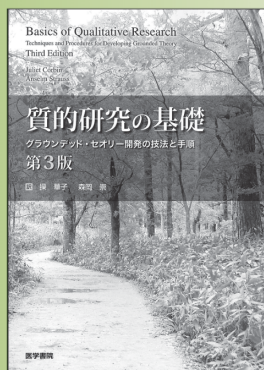


社会と個人の関係を探る手がかりとして

【評者】竹崎久美子 高知県立大学看護学部

質的研究の基礎
グラウンデッド・セオリー開発の
技法と手順 第3版
ジュリエット・コービン／アンセルム・ストラウス(著)
操華子／森岡崇(訳)



定価 4515 円
(本体 4300 円＋税 5%)
医学書院
(Tel : 03-3817-5657)

『質的研究の基礎』も版を重ねること第3版になります。2008年に改訂された本書がこれほど早く翻訳されるのは、本書がそれだけ質的な研究方法、なかでもグラウンデッド・セオリーに関する理論的背景や分析の実際について、創始者の1人である故アンセルム・ストラウスが解説する数少ない著書であるからです。

質的研究方法という、地域看護ではエスノグラフィやKJ法が有名だと思います。長い歴史に裏打ちされた「文化」や「風土」を探ることを目的とするエスノグラフィ、新たなものの見方を見出すべく、言葉を文脈から切り離して分類するKJ法、それぞれに方法論の特徴があります。その意味でグラウンデッド・セオリーはある特定の社会とそこで生きる個人との相互作用について探究することを目的とした研究方法論です。

ある小集団に所属している構成員の人々は、その社会とどのような関わりをもって生きているのでしょうか。そこには共有される価値観と、その価値観に対する個人のさまざまな反応のパターンがあります。さらにそのパターンには変化する過程があり、そのパターンや過程、変化の段階が解明(説明)できたとしたら、人々の行動変容にもつなげることができます。グラウンデッド・セオリーは、そのような実践につなげることのできる研究方法です。

第3版となる本書では、1996年に亡くなったストラウスの社会学者としての哲学的バックグラウンドや、分析における基本的考え方を真摯に踏襲しようとするコービンの思いが、随所に窺われる内容となっています。この点で、第1章を始めいくつか難解な内容に思われる章があるかもしれませんが。これらの章は、修士・博士課程の学生や研究者にとって必要となる章なので、興味のある方はじっくり読んでみられたらよいと思います。

実際の分析方法については、8～10章を中心に書かれています。これらの章も、決して本書が分析方法のハウツー本ではないので、これを読めばグラウンデッド・セオリーの分析ができるというわけではありません。しかし今回の改訂では、実際に著者たちが行った「ベトナム戦争の退役軍人に関する研究」のさまざまな事例の分析が収録されていて、それらを読むと実際の質的な分析の深め方の一端を垣間見ることができます。きっと、こんなふうに掘り下げてみたいと思う身近な社会と個人の現象に思い当たることと思います。

著者のコービンが再三語っているとおり、本書は研究方法のハウツー本ではありません。むしろ、一通り研究の分析を終えた人には、あらためて自分がどのような知的探究作業を展開してきたのかを確認できる著書かもしれません。しかし実践家の人も、開いてみると今現場で向き合っている「ある社会」と「個人」の関係を探究するヒントが、随所に見つけられる書籍だと思います。